

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 28 日現在

機関番号：62501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25284027

研究課題名(和文) 東西貿易と東洋趣味コレクション 17～19世紀の日本美術コレクションが担った役割

研究課題名(英文) Global Trade and the taste for Far Eastern exotic objects: The Role of 17-19th century's Japanese collection

研究代表者

日高 薫 (Hidaka, Kaori)

国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授

研究者番号：80230944

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 18,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、17世紀から19世紀にかけての西洋における日本美術受容について、漆器・陶磁器・染織品・屏風などの交易品の輸出と、東洋趣味のコレクションの形成という側面から検討した。ヨーロッパ各地(オランダ、イギリス、ドイツ、オーストリア、スペイン、メキシコ、ロシア、チェコ、スロヴァキアなど、)に伝世する日本製磁器・漆器・染織品等のコレクションの調査、またシノワズリ建築・室内装飾と、それを構成する中国・西洋製などの美術工芸品の調査をおこなった。東インド会社の記録や貴族の所蔵品目録などの文献資料から、交易とコレクション形成についての情報を収集し、現存するもの資料との関連を検討した。

研究成果の概要(英文)：We have investigated the reception of Japanese art from the 17th to the 19th century in Europe, focusing on the exportation of Japanese lacquer, porcelain, textile and screens. Our study also examined the formation of the far-Eastern collections in this period. (1) We made a series of separate researches on the Japanese extant objects in Europe and Chinese and European objects displayed in the European chinoiserie interiors. (2) We examined the source materials such as documents of East Indian companies and the inventories of the collections to find out the information about the objects.

研究分野：美術史

キーワード：工芸 東西交流 漆器 陶磁器 シノワズリ 収集

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者を中心とする研究組織は、平成21年度から24年度にかけての科学研究費補助金・基盤研究(B)「シノワズリの中の日本—17~19世紀の西洋における日本文化受容と中国」において、本研究課題の前段階となる研究をおこなっている。

ジャポニスム研究が、ここ20年あまりの間にめざましい進展を遂げ、その対象をより広範な地域・分野に拡大して深化をみせているのに対し、ジャポニスム以前の東西交流については、その重要性にもかかわらず、丹念な検討がおこなわれてこなかった。先見性のある先学によるわずかな業績(Chisaburo Yamada, *Die Chinamode des Spätbarock*, Berlin, 1935・小林太市郎『支那と仏蘭西美術工芸』東方文化学院京都研究所、弘文堂書房、1937年・山田智三郎『一七、一八世紀に於ける欧州美術と東亜の影響』アトリエ社、1942年)に続く、当該領域の新たな研究の出発点として、近年進展の著しい輸出陶磁と輸出漆器の分野の研究成果をふまえ、総合的な研究に着手したのがこの研究である。

その主たる研究成果は、シノワズリという文化現象の全体像についての共通認識を深めることができたこと、また、従来個別に研究が進められてきた漆器と磁器の伝世状況と受容史に関して、共同で研究を行うことができたことである。また、漆の間、磁器の間の現地調査を通じて、オランダに始まった東洋趣味の室内装飾の伝統が、王族の姻戚関係を通じて、ドイツとイギリスに伝わったのちに、その他の国へ広まっていく経緯を確認することができた。

さらに、「シノワズリ」の用語・定義について、欧米の研究者と日本人研究者との認識に大きな齟齬があり、ヨーロッパ美術史の学問領域においては、「シノワズリ」とは、「西洋で作られた東洋風のもの」と認識するのが一般的であり、この中からは、東洋製の美術工芸品は除外されることが明確となった。(用語の定義については、引き続き歴史的な検討を加える必要があるが、海外における調査に際しては、誤解を避けるため、日本・中国製の美術工芸品を含む東洋趣味に関しては、現状、それに対する西洋の用語である「China Mode (独)」、「Le goût chinois (仏)」を用いている。)

## 2. 研究の目的

このような研究状況をふまえ、本研究計画は、すでに調査済みのオランダ・ドイツ・北欧地域・イタリア・フランスに加えて、イギリス・ロシア・東欧などの地域の調査を進めるとともに、伝世品に乏しい染織品・屏風についても目配りをしながら、貿易記録や所蔵品目録など文献資料からの検討を加えるこ

とによって伝存遺品の欠を補うこととした。

これらの結果を通じて、ヨーロッパ宮廷の東洋趣味コレクションにおける日本製工芸品の位置づけと影響について検討し、これらのコレクションが誰によって、どのような意図で形成され、どのように受け継がれていったのかについて考察する。

## 3. 研究の方法

本研究は、極めて広範な領域にわたる資料を対象とし、全てを期間内に検証することは不可能であるため、以下にあげる具体的な研究内容のうち、  
・ を中心に実証的研究をすすめ、補足的に  
・ の問題を扱う。A 漆工、B 陶磁、C 染織の3班を中心に調査をおこない、これに周辺領域の動向を加味して全体像をとらえる方法をとった。

伝世資料による西洋諸国における日本文化受容の様態の解明

(1) 漆器・磁器のコレクション形成とその機能(財産目録をともなうコレクション等の調査を通じて、中国製工芸品と日本製工芸品の識別・区別の意識や、日本美術品収集にみる性差の問題などを検討する)

(2) 漆器・磁器と装飾(漆の間・磁器の間・中国の間などに飾られた日本工芸品の役割)

(3) 漆器・磁器の改造および金具の装着

(4) 輸出された染織品(ヤボンセ・ロッケン、ベッドカバー、壁布など)

(5) 中国製・インド製交易品(漆器・磁器・染織品ほか)等との比較

史料にみる日本の美術工芸の輸出

(1) 染織品の輸出記録の抽出と考察

(2) 屏風の輸出記録の抽出と考察

(3) 唐船による美術工芸品の輸出記録の抽出と考察

(4) 西洋絵画に描かれた日本の美術工芸品(漆器・磁器・染織品・屏風など)の抽出

シノワズリにみる日本美術工芸の模倣と影響(技術・モチーフ・文様構成・表現など)

(1) ジャパニング(模造漆器)

(2) ヨーロッパにおける磁器の制作と模倣

(3) インド製のヤボンセ・ロッケン

シノワズリからジャポニスムへ

(1) シノワズリの定義

(2) 従来のシノワズリ評価と新しい評価・ジャポニスムとの比較または関係

## 4. 研究成果

(1) 海外コレクションの調査

各国に現存する漆の間・磁器室・鏡の間などのシノワズリ室内装飾の調査と、それを構成する日本製磁器・漆器および染織品、関連する中国・西洋製の工芸品の調査を行った  
オランダにおける調査(2013年度)

訪問先は、[アムステルダム国立博物館(日本製漆器・磁器・染織品・漆器のための下絵の調査)、アムステルダム海事博物館(交易史関連資料の調査)、ロッテルダム海事博物館(日本製漆器・交易関係資料の調査)、ポイマンス・ヴァン・ペーニンゲン美術館(インド・ポルトガル美術など交易史関係資料の調査)、ヘット・ロー宮殿(日本製漆器・磁器・染織品の調査)]

アムステルダム国立博物館が近年新たに収蔵した蒔絵櫃および蒔絵下絵、ヘット・ロー宮殿およびアムステルダム国立博物館所蔵のヤボンセ・ロッケン(染織品)の調査をおこなうことができたことは有益であり、17~19世紀の交易品に関する多くの新知見を得ることができた。

イギリスにおける調査(2014年度)

訪問先は、ハンプトン・コート宮殿(磁器の調査)、ケンジントン宮殿(漆器・磁器などの調査)、ウィンザー城(漆器・磁器などの調査)、アシュモレアン美術館(漆器・磁器・染織品の調査)、ロイヤル・パヴィリオン(シノワズリの建築および室内装飾、日本・中国製漆器、中国製磁器・その他の工芸品の調査)、エルトン・ホール(日本漆器および磁器の調査)、ベルトン・ハウス(日本製磁器および漆器、シノワズリ室内装飾の調査)、ウォレス・コレクション(日本製磁器および漆器の調査)

これまで調査が困難であった英国王室のコレクションや、個人蔵のバイスの箱(エルトン・ホール)の詳細な調査をおこない、現地研究者と交流を持った。

ロシアにおける調査(2015年度)

訪問先は、エルミターージュ美術館、ツァールスコエ・セロー、ペテルゴフ宮殿、オラニエンバウム宮殿、メンシコフ宮殿、ストロガノフ宮殿、クンストカメラなどである。日本では知られていないロシア宮廷における日本工芸の高度な受容例が存在することを確認しえた点が成果となった。

スペインにおける調査(2015年度)

ナバーラ美術館において、日本製輸出漆器およびメキシコ製工芸品の調査をおこない、サラゴサ美術館が所蔵する日本漆工芸資料の調査をおこない、現地研究者との研究交流および打ち合わせをおこなった。スペインについては、既にマドリッド市内の調査をおこなっていたため、今回は地方都市に所蔵される日本美術の調査を一部おこなったが、さらに多くの所蔵例を確認しており、調査を継続する必要がある。

メキシコにおける調査(2015年度)

工芸および宮殿・協会の建築装飾等の調査、とりわけ日本の影響を受けたメキシコ螺鈿や屏風、東洋と西洋の影響を受けた陶磁器等の調査をおこない、現地研究者との研究交流もおこなった。

チェコおよびスロヴァキアにおける調査(2016・2017年度)

訪問先はチェスター・チェルフィニー・カメン城、プラティスラバ城(国立歴史博物館)、ボニツェ城、スロヴァキア国立ギャラリー、スロヴァキア市立ギャラリー(以上スロヴァキア)、ムニホヴォ・フラジシチェ城、ナールステク美術館、プラハ国立美術館、プラハ芸術大学(以上チェコ)など。

(2) 研究会、シンポジウムへの参加

関連諸分野の研究者にも参加を募って、国立歴史民俗博物館外国人研究員として滞在中のシンシア・フィアレ氏による研究発表「日本輸出漆器に関する19世紀オランダの史料」をおこなうとともに、国立歴史民俗博物館が所蔵する19世紀の輸出漆器の見学会をおこなった。(2014年3月24日)

ハイデルベルク大学において開催された国際会議 EurAsian Objects: Art and Material Culture in Global Exchange, 1600-1800 に参加し、グローバル・アートヒストリーの方法論によるヨーロッパとアジアの交流史に関する知見を深めた。また、23日に日高が口頭発表「16世紀~19世紀の日本製輸出漆器に反映された日欧文化交流」をおこなった。(2015年11月21日~23日)

科研費基板研究(A)による研究「17世紀オランダ美術の東洋表象研究」(研究代表者:幸福輝)に協力し、学術シンポジウム「17世紀オランダ美術と<アジア>」(於:国立西洋美術館、2017年1月21日)で日高および櫻庭が報告をおこない、海外の研究者との交流をはかった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 24件)

日高薫・平田 由紀「アムステルダムにおけるシーボルトの第二次コレクション展示について—新出の古写真資料にもとづく考察」『シーボルト・コレクションから考える』国立歴史民俗博物館、123-134頁、2018年、査読無

櫻庭美咲「陶磁史から考えるミュンヘンのシーボルト・コレクション」『シーボルト・コレクションから考える』国立歴史民俗博物館、123-134頁、2018年、査読無

日高薫「口絵解説 グスタフ 世肖像図 蒔絵プラケット」『日本歴史』830号、1頁、2017年、査読無

日高薫「近世における漆工品の輸出—その形態に注目して」『家具道具室内史 4』4-23頁、2017年、査読無

日高薫「ジャパンと呼ばれた漆器」国立歴史民俗博物館・青木隆浩編『人と植物の文化史 - 暮らしの植物苑がみせるもの -』古今書院、40-55頁、2017年、査読無

日高薫「記憶と幻想—17世紀の日本製輸

出漆器にみる風景表現」『17世紀オランダ美術と<アジア>』127-130頁、2017年、査読無

櫻庭美咲「オラニエ=ナッサウ家の磁器収集と陳列の諸相」『17世紀オランダ美術と<アジア>』20-26頁、2017年、査読無

日高薫「シーボルトが注目した日本の漆工芸—二回目の訪日時のコレクションを中心に」、展示図録『よみがえれ！シーボルトの日本博物館』国立歴史民俗博物館監修、青幻舎、219-227頁、2016年、査読無

櫻庭美咲「フランス製マウントによる伊万里焼の加飾」『鹿島美術研究』200-212頁、2015年、査読無

日高薫「シーボルト・コレクションの漆器」『シーボルトが紹介したかった日本—欧米における日本関連コレクションを使った日本研究・日本展示を進めるために—』国立歴史民俗博物館編集・人間文化研究機構発行、157-167頁、2015年、査読無

櫻庭美咲「ミュンヘン国立民族学博物館所蔵シーボルト・コレクションの陶磁器」『シーボルトが紹介したかった日本—欧米における日本関連コレクションを使った日本研究・日本展示を進めるために—』国立歴史民俗博物館編集・人間文化研究機構発行、157-167頁、2015年、査読無

荒川正明「絢爛たる近代陶磁の造形—「超絶技巧」と「グロテスク」の求めた世界—」『有田焼創業四百年記念 明治有田超絶の美 万国博覧会の時代 論考集』西日本新聞社、58-67頁、2015年、査読無

Yoshida Masako, 'Reconsidering the Bird, Animal, and Flower Embroidery Owned by the Foundation of Ricardo do Espirito Santo Silva in Lisbon,' CIEITA Bulletin, Vol. 86/87, 2015, 査読無

櫻庭美咲「オランダにおける磁器陳列室の誕生とオラニエ=ナッサウ家の女性」『陶説』Vol.737、38-55頁、2014年、査読有

櫻庭美咲「オランダ東インド会社従業員による個人貿易—西洋向け肥前磁器輸出の考察—」『東洋陶磁』44号、75-92頁、2014年、査読有

Miki Sakuraba, 'Chinese and Japanese porcelain for the Netherlands in the 17th century, "Chinese and Japanese porcelain for the Dutch Golden Age", Rijksmuseum Amsterdam, pp.109-127, 2014, 査読無

Yoshida Masako, 'Bird, Flower, and Animal Design Embroideries Owned by The Metropolitan Museum of Art: Four Directional Composition Pieces', Metropolitan Museum Journal, Vol.49, 2014, 査読無

荒川正明「桃山陶器の革新性：変貌するかたちと意匠」『聚美』Vol.12、43-63頁、2014年、査読無

山崎剛「日本の螺鈿 - 中尊寺金色堂をはじめとする平安時代の遺品」The Goryeo Incense Box and East Asian Lacquerwares', Asia Museum Institute 編, Center for Art Studies, Korea, pp.207-228, 2014, 査読無

日高薫「読書案内 ジャポニズムとシノワズリ 西洋における日本美術の受容」『歴史と地理(世界史の研究 238)』671巻、37-40頁、2014年、査読無

21 日高薫「世界史の中の桃山漆器」『日本美術全集 10 黄金とわび』小学館、210-214頁、2013年、査読無

22 山崎 剛「輸出漆器に見る物語絵の受容」(下原美保編)『近世やまと絵再考—日・英・米それぞれの視点から』ブリュッケ、243-260頁、2013年、査読無

23 澤田和人「江戸時代の女性のキモノ—模様と身分・階層」『外国で「日本」を展示するということ—カナダ文明博物館(オタワ)の特別展示「伝統と革新の国, 日本」をめぐって』35-38頁、2013年、査読無

24 吉田雅子「祇園祭の函谷鉾の花鳥獣刺繍見送と水引」『民族藝術』29、154-164頁、2013年

〔学会発表〕(計 22件)

櫻庭美咲「磁器陳列室をめぐる神聖ローマ帝国諸侯の競合と日本磁器」国際シンポジウム「異文化を伝えた人々—21世紀在外日本コレクション研究の現在」国立西洋美術館、2017年10月28日

澤田和人「アメリカにおける日本の染織品に対する嗜好の変化—野村正治郎の販売活動を手掛かりとして—」国際シンポジウム「異文化を伝えた人々—21世紀在外日本コレクション研究の現在」国立西洋美術館、2017年10月28日

澤田和人「シーボルト・コレクションの長崎くんち衣裳」第30回人文機構シンポジウム「海の向こうの日本文化—その価値と活用を考える—」九州大学西新プラザ、2017年6月3日

日高薫「近世における漆工品の輸出—その形態に注目して」家具道具室内史学会大会・総会・シンポジウム トーク&ディスカッション「日本の木工文化を世界へ」愛知芸術文化センター アートスペース EF、2017年6月3日

日高薫「シーボルトの収集資料と《日本博物館》」、調査報告会「ドイツに残るシーボルト・コレクションの魅力」、長崎歴史文化博物館、2017年2月25日

日高薫「記憶と幻想—17世紀の日本製輸出漆器にみる風景表現」学術シンポジウム「17世紀オランダ美術と<アジア>」、国立西洋美術館、2017年1月21日

櫻庭美咲「オラニエ=ナッサウ家の磁器収集と陳列の諸相」学術シンポジウム「17世紀オランダ美術と<アジア>」、国立西

洋美術館、2017年1月21日  
日高薫「シーボルトの日本博物館を復元する—国立歴史民俗博物館による巡回展示の意味するもの—」第10回国際シーボルト・コレクション会議、日本博物館シーボルトハウス/国立歴史民俗博物館、2016年10月20日  
日高薫「在ヨーロッパ・シーボルト資料研究最前線—シーボルトの日本博物館の復元を目指して」日独シーボルト・シンポジウム2016, OAG haus, 2016.10.10  
日高薫「シーボルトの日本博物館を復元する—国立歴史民俗博物館による巡回展示の意味するもの—」Reconstructing the Siebold's Japan Museum, 第10回国際シーボルトコレクション会議 2016 in Nagasaki, 長崎ブリックホール会議場, 2016, 2016.10.22  
日高薫, 'Lacquerware as a global commodity', 国際シンポジウム"Japanese Art Histories and their Global Contexts: New Directions (日本美術研究の現在—グローバルな視点から)", ハイデルベルク大学 東アジア美術史研究所, 2015.10.22  
日高薫, 'Japanese Export Lacquer in a Global Context,' ハイデルベルク大学東アジア美術史研究所講演会, ハイデルベルク大学, 2015.1.22  
吉田雅子 'Chinese textiles exported to Europe and their influences in the 16th through 18th centuries' 中国絲綢博物館(杭州)「絲路之綢: 期限、伝播与交流」国際学術報告会, 2015  
日高薫, 'The Interactive Cultural Exchange between Japan and Europe Reflected in Japanese Export Lacquer of the 16th-19th,' 国際シンポジウム "EurAsian Objects: Art and Material Culture in Global Exchange, 1600-1800," ハイデルベルク大学, 2014.11.23  
日高薫, 「輸出漆器の美と漆芸—スウェーデンのコレクションにみる輸出漆器の歴史」明治大学「漆の戦略的研究基盤形成事業プロジェクト」・「漆を科学する会」, 明治大学, 2014年9月20日  
日高薫, 「イギリスのコレクションにみる日本製輸出漆器」, Study day: researching and using Japanese collections in museums, Durham University, 2014.6.9  
シンシア・フィアレ「日本輸出漆器に関する19世紀オランダの史料」国立歴史民俗博物館, 2014年3月24日  
日高薫「シーボルト・コレクションの漆器」国際シンポジウム「シーボルトが紹介したかった日本」, ドイツ、ルール大学ボーフム, 2014年2月12日  
櫻庭美咲「ミュンヘン国立民族学博物館所蔵シーボルト・コレクションの陶磁器」

国際シンポジウム「シーボルトが紹介したかった日本」, ドイツ、ルール大学ボーフム, 2014年2月12日

日高薫 "East Asian Lacquers in Western Collections" 国際シンポジウム "Moving Art Between East Asia and the West" 人間文化研究機構・チューリッヒ大学共同主催 於チューリッヒ大学, 2013.3.7~9

21 櫻庭美咲, "Historical Japanese Porcelain Collection in the West" 国際シンポジウム "Moving Art Between East Asia and the West" 人間文化研究機構・チューリッヒ大学共同主催, 於チューリッヒ大学, 2013.3.7~9

22 Yoshida Masako "The International Expansion of Textiles with Flower, Bird, and Animal Designs" Interwoven Globe Symposium (招待講演). The Metropolitan Museum of Art, 2013

〔図書〕(計 7件)

『シーボルト・コレクションから考える』国立歴史民俗博物館, 2018年、査読無

『シーボルト日本博物館の概要と解説—欧文原本・翻刻・翻訳』国立歴史民俗博物館, 2018年、査読無

『よみがえれ! シーボルトの日本博物館』青幻舎, 2016年、査読無

国際シンポジウム報告書『シーボルトが紹介したかった日本—欧米における日本関連コレクションを使った日本研究・日本展示を進めるために—』国立歴史民俗博物館編集・人間文化研究機構発行, 2015年、査読無

『五大陸博物館所蔵シーボルト・コレクション関係史料集成』国立歴史民俗博物館, 2015年、査読無

櫻庭美咲『西洋宮廷と日本輸出磁器—東西貿易の文化創造—』藝華書院 全610頁, 2014年、査読無

荒川正明責任編集『日本美術全集第10巻 黄金とわび(桃山時代)』小学館, 全304頁, 2013年、査読無

〔産業財産権〕

該当なし

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

日高 薫 (HIDAKA, Kaori)

国立歴史民俗博物館・研究部・教授

研究者番号: 80230944

(2) 研究分担者

荒川 正明 (ARAKAWA, Masaaki)

学習院大学・文学部・教授

研究者番号：70392884

山崎 剛 (YAMAZAKI, Tsuyoshi)  
金沢美術工芸大学・美術工芸学部・教授  
研究者番号：70210391

澤田 和人 (SAWADA, Kazuto)  
国立歴史民俗博物館・研究部・准教授  
研究者番号：80353374

櫻庭 美咲 (SAKURABA, Miki)  
国立歴史民俗博物館・研究部・機関研究員  
研究者番号：20425151

(2) 連携研究者

吉田 雅子 (YOSHIDA, Masako)  
京都市立芸術大学・造形学部・教授  
研究者番号：40405238

(4) 研究協力者

シンシア・フィアレ (Cynthia Vialle)  
ライデン大学文学部歴史研究科・研究員